

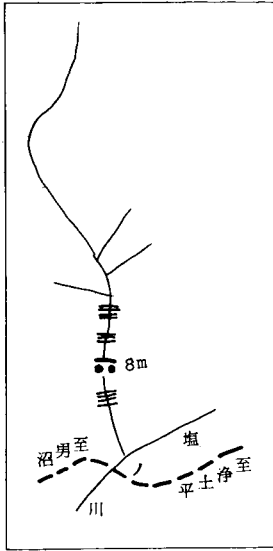
的場川

一九七九年八月二十六日

◆天気(雨)

どうせ沢登りはぬれるからと出発したが、どうも意気が上がらない。塩の川からすぐ的場川に入る。水量は思ったより少なく、水ゴケの付いた石がゴロゴロしている。ミズナが生えている。これじゃ登るだけヤボと思いつつも登る。

入口で左岸より二本の枝沢が入るがあとは何も無い。あまりにも単純。やっと滝らしい八段に出るが他はナメが三つだけ。左岸からの二本の支流を過ぎると水量も極



的場川 (作図：橋内憲治)

端に減ったので昼食をとって引き返す。

沢からあがったら晴れてきた。

(記・)

〔タイム〕

的場川出合九・一五―引き返し点二二・〇〇―出合一
三・三〇

荒川

一九七六年八月十一日

◆天気(晴)

土湯温泉から荒川林道を進み、土湯温泉の泉源の先、荒川と黒沢の合流点すぐ上流の砂防ダムの所から沢に入る。

流域面積が広いだけにかかなりの水量だ。石を飛び、渡渉をくり返しながら進む。すぐに砂防ダム。荒川にはこの人工の建造物が多く、本当に泣かされた。歩きはじめで約一時間、兩岸とも側壁がそそりたち廊下状となる。荒川の核心部かと期待して進む。やがて最初の滝。簡単に乗り越せるが、そのすぐ先の大きな滝(大岩滝と思われる)が越せず合わせて右岸を高捲く。なおも廊下が続